

映画「アリラン」のフィルムは出てくるか

収集家の遺品調査に期待

深田晃二

★はじめに★

今年 2005 年 2 月 9 日大阪の病院で「伝説の映画フィルムコレクター」といわれた安倍善重氏（東大阪市 81）が亡くなった。朝鮮総督府警察医だった父親・鼎氏の代から映画を収集し、氏のフィルム所蔵リストの中には朝鮮では既になくなってしまった 1920～45 年の韓国・朝鮮映画 60 本と、日本の無声映画などが含まれていると言われている。10 年程前の毎日新聞報道によれば、このリストのうち「東洋映画 55 本」の中に「アリラン/9 本/現代劇」と書かれたものがあり、これがまだ見つからない羅雲奎（♀・ウンギョ）の 1926 年（景福宮朝鮮総督府建物完成の年）の作品「アリラン」に違いないと憶測され注目されてきた。

ずいぶん以前の話になるが NHK のアジア映画劇場で、映画評論家の佐藤忠男氏が「羅雲奎のアリランが日本のどこかにあるはずだ」と話していたが、安倍氏のような収集家の事を言っていたのであろう。逝去のニュースに関連しこの映画について得た情報をまとめた。

★調査・貸出・返還拒否★

今まで安倍氏やその依頼者が 5 万本の収蔵フィルムを正式に調査したことはなく、また韓国側関係者からの「調査依頼」に対しても、調査拒否の態度をとってきた。プラネット映画資料図書館代表の安井喜雄氏が 70 年代にフィルムの貸出と保管状況を安倍氏に尋ねると「何人かの人を雇い点検している。フィルムに塗るワックスも、ドラム缶で購入している。保存というのは人に貸すことではない。上映しないことが保存だ」と貸し出しを拒否されたという。以後の訪問でも「アリラン」に関して「フィルムが島根の倉庫に有ってまだ出てこないの、出てきたら北、南、日本の三者同時に提供する」と言明。「日本の代表は辛基秀（シン・ギス、2002 年 10 月 5 日没）さん」と言ったとのことである。

他の情報では「南北朝鮮が合意すれば返す」「統一すれば返す」「大統領が天皇にフィルム返還を正式要請すれば返す」といった不可解な発言もあったが、人に貸したフィルムが戻ってこなかった事があったり資料散逸を避ける為にフィルムの貸出は行わなくなった。加えて調査・返還も一貫して拒否してきた。

★「アリラン」のあらすじ★

日本植民地下の朝鮮、ヨンジンといふ学生が 3・1 独立運動失敗の衝撃で発狂し農村に帰郷した。ヨンジンを尋ねてきた親友ヒョングがヨンジンの妹ヨンヒと切ない恋に落ちる。悪徳地主の作男であり親日派のキホが

農楽祭の日ヨンヒを劫奪しようとした。これを見たヒョングはヨンヒを助ける為にキホと乱闘劇を演じる。これを興味深そうに見ていたヨンジンは急に幻想にとらわれ



たかのように鎌を振り回し（写真はこの場面と思われる）、キホがその鎌に突かれて死んだ。その衝撃でヨンジンは正気に戻る。

ヨンジンが手錠を掛けられ日本警察に連行される後ろで「アリラン」が流れこの映画は終わる。最後のシーンで観客は涙を流し、「アリラン」を歌った。この映画の成功と共に民謡「アリラン」は韓民族の象徴となったと言われている。

★作者 羅雲奎（♀・ウンギョ）★

羅雲奎(1902～1937)の号は「春史」。咸鏡北道會寧出生、満州間島育ち。1924 年釜山で韓国人最初の映画製作会社「朝鮮キネマ」が設立され、羅雲奎がここで作った「雲英伝」に駕籠屋として初出演し映画界にデビュー。その後演義派として一躍名優になった。独立運動を背景にした抵抗的な「アリラン」と「羅雲奎」で映画界の鬼才と呼ばれるようになった。27 年羅雲奎プロダクションを創立して 29 年格調高い文芸映画「鱈の三龍」を発表した。31 年日本に渡って東京映画界を視察し 32 年に帰国。36 年「アリラン」第 3 篇をトーキーで製作した。29 編の作品を残し 26 本の映画に出演した。

植民地下で民族映画の先覚者として映画の精神と水準を大きく引き上げ、韓国無声映画全盛期は羅雲奎と共に始まり、36 歳の若さで亡くなった彼の死去と共に終わったといっても過言ではないと言われている。

★「アリラン」の評価★

羅雲奎が 24 歳の時にシナリオ・監督・主演を務めた白黒の無声映画「抗日民族映画は、民族映画の覚醒的役割を果たし、当時としては珍しくリアリズムに即した秀作だった」と評されている。

韓国歴史批評社「我々は 100 年をどのように生きたか」のキム・ソフィ氏の解説は、映画「アリラン」について理解を深めることができるので、少し長いが引用する。

“この時期に『アリラン』を作る事ができた理由は、3・1 運動以後、日帝が武断政治から転換して宥和政治を広げた社会的情勢と共に、映画界の内部事情として相次いで興行に成功し供給不足を起こすほど好況期だったからだ。これ以前の韓国映画はほとんどが古代伝説や文芸作品を土台として作られていたのに比べ、『アリラン』は地主・マム（小作地管理人）・小作人・日帝の殺人者・知識人・貧乏人・性的戯弄の犠牲になった女性など徹底して朝鮮の現実に根づく人物を登場させていた点で画期的であった。

主人公ヨンジン（ユンジン）は専門学校を休学して故郷へ帰った気が狂った知識青年として設定されている。これは日帝の検閲を避ける苦肉の策であったばかりでなく、当時の現実に対し心置きなく嘲弄することができる仕掛けだったと思われる。また、映画は当時が気が狂うほど苦痛の時代であったことを我々に訴えている。

このように『アリラン』は当時朝鮮の現実と大衆の情緒を敏感に捕らえたと言うことだ。当然大衆の反応も熱く 1926 年上半年期だけで 110 万人の観客が入った。引用者注：93 西便制 230 万人、98 シュリ 580 万人）

ところで、『アリラン』は羅雲奎が監督したことに対し疑問が提起されている。映画が封切られた当時、監督の名前が「津守秀一」だと日本人が発表したからだ。もちろん羅雲奎自身がこの映画を直接演出したと明らかにした記録もあるために、この問題はいま尚論争の渦中にある。このような論争が我々に示唆することは、いままでも羅雲奎に対する関心がどれだけ漠然としていたかということだ。羅雲奎を取り巻く研究はこれから新た



朝鮮日報 1926.10.1 新聞広告 監督：津守秀一とある

にはじめなければならぬようだ”

★オリジナルフィルム出るか★

2 月 11 日に大阪で行われた葬儀に出席したドキュメンタリー映画監督の鄭秀雄（ユン・スウン、62）氏は「フィルムは確認できなかったが、所蔵リストに『アリラン』が載っていたのをもう一度確認した」「この映画は民族の遺産であるだけに、今は政府レベルで取り戻す努力をしなければならない時」と述べたと言う。又、生前に安倍氏に映画『アリラン』返還を継続的に要請してきた民族アリラン連合会のキム・ヨンガプ常任理事らが 14

日、大阪の安倍氏の自宅を訪問した事について新聞は次のように報じている。

“安倍氏宅は廃屋のように荒れ果て、ブルーシートで覆われたフィルムの山が路上にまで溢れていた。キム理事は「一部は水に濡れているのが確認できた」これ以上の資料損失が起きないよう日本政府が速やかに対策を講じてほしい」と話している。”

これまでも南北の映画界が映画『アリラン』をめぐる返還競争を行ってきたが、北朝鮮は総聯映画制作所長だったヨ・ウンガク氏（78）が、韓国は前述の鄭秀雄氏、キム・ヨンガプ氏らが返還交渉に乗り出している。

フィルムは東大阪の自宅にあるのか、はたまた温湿度管理の行き届いた島根の倉庫にあるのか。調査だけでも数年かかると言われているが、収集フィルムの全貌解明と『アリラン』フィルムの発見が待たれる。

★見つければ帰属はどこに★

安倍氏の相続人が現れなければ、5 万本のフィルムは日本の国家財産に帰属する。日本の文化庁の『アリラン』フィルム問題の責任者の寺脇研文化部長は 2 月 15 日、「安倍善重氏の遺品が日本の国家財産に帰属し、この中に『アリラン』のフィルムがあれば、複写本を韓国と共有したい」相続人だと主張する人が現れなくても、故人の財産が国に帰属する手続きに時間がかかり、また膨大なフィルムを調査するのも容易なことではない」「しかし、映画が見つかれば共有する考え」と共有することを強調している。ただ、『アリラン』が発見されたとしても、はたして映画の鑑賞に耐えうる保存状態かどうかの疑問は依然として残る。

★リメイク版の公開★

同名映画のリメイクは今まで 6 回行われているが、羅雲奎生誕 100 周年の 2002 年、李斗鏞（イ・ドゥヨン、64）監督作『アリラン』は 03 年 5 月に平壤の 2 か所の映画館でも南と同時に上映された。

またこの映画は在日韓国人のイ・チヨルウ氏（66）が輸入し日本全国で順次上映される。まず愛知万博では 5 月 11 日『韓国の日』から、22 日まで上映された。光復 60 周年記念の一環として今年 7 月 27～29 日に東京日比谷公会堂で行われるアリランフェスティバル期間中も上映され、8 月 12 日の西宮市民会館アミティーホール、8 月 13 日の神戸文化ホールと巡回上映される予定だ。

★おわりに★

オリジナル版『アリラン』フィルムの存在は安倍氏の収集品の中にその可能性が高いが、他にもフィルム収集家が存在すること（三田市など）から、どこかで見つかり、公開・返還することが出来れば文化交流の一つとして歓迎されるであろう（完）